

【国語科の目標】
(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に扱うことができるようにする。
(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
(3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

学習内容(予定時間数)

一学期（52）	二学期（64）	三学期（40）
【4月～5月】 言葉に出会うために 「朝のリレー」「野原はうたう」 1 学びをひらく（14） 「はじまりの歌」 言語1（1） 話の構成を工夫しよう	【8、9月～10月】 4 心の働き（14） 「大人になれなかった弟たちに……」 「星の花が降るころに」 聞き上手になろう、項目を立てて書こう 言語5、6（2） 5 筋道を立てて（16） 「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」	【1月】 6 いにしえの心にふれる（4） 「今に生きる言葉」 7 価値を見いだす（10） 「『不便』の価値を見つめ直す」 言語9（2）
【5月～6月】 2 新しい視点で（16） 「ダイコンは大きな根？」 「ちょっと立ち止まって」 「情報を整理して書こう」 言語2（1） 文法への扉1（4）	【10月～11月】 根拠を示して説明しよう（2） 話題や展開を捉えて話し合おう（2） 言語7（2） 6 いにしえの心にふれる（12） 「いろは歌」「蓬萊の玉の枝」	【1～2月】 8 自分を見つめる（8） 「少年の日の思い出」 言語10（2） 言語11（2）
【6月～7月】 3 言葉に立ち止まる（13） 「詩の世界」「比喩で広がる言葉の世界」 言語3（1） 言語4（1） 読書を楽しむ（1）	【12月】 毛筆「書き初め」（8） 百人一首（4） 言語8（2）	【3月】 随筆二編、構成や描写を工夫して書こう（2） 一年間の学びを振り返ろう（6） 漢字に親しもう6（2） 様々な表現技法、漢字の成り立ち（2） 各種定期テスト（4）

評価の観点と規準（各観点の割合はすべて達成率100%で統一する）			
	評価の観点	評価の方法・資料	評価方法の規準とポイント
I	<知識及び技能> 各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価をするとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価する。	・定期テストの「知識及び技能」の観点 ・漢字テスト ・文法テスト ・暗唱 など	・定期テストの知識及び技能に関する問題においての、達成率の評価。 ・漢字テストは10点満点を基本とする。 ・長期休業明けに漢字50問テストを行う。 ・授業の評価については授業ノート評価を主とし、A＋、A、B＋、B、B－、C、Dで評価する。
II	<思考力・判断力・表現力等> 各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。	・定期テストの「思考力、判断力、表現力等」の観点 ・ワークシート ・各種作文 ・発表評価 ・聞き取りテスト など	・定期テストの思考力・判断力・表現力等に関する問題においての、達成率の評価。 ・各種ワークシートはA＋、A、B＋、B、B－、C、Dで評価する。 ・各種作文は年間を通して実施する。 ・発表評価は5段階で評価する。
III	<主体的に学習に取り組む態度> 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。	[全教科共通] ・「知識及び技能」の観点の評価 ・「思考力・判断力・表現力等」の観点の評価 [平常点] ・語句の意味調べ ・暗唱 ・自主学習 ・各課題 など	[全教科共通] ・「知識及び技能」の観点の授業内容における、指示に従ってしっかり行おうとしたり、学ぼうとしたりする態度。 ・思考力・判断力・表現力等」の観点の授業内容における、指示に従ってしっかり行おうとしたり、学ぼうとしたりする態度。 ・授業、課題に意欲的に取り組み、意見を積極的に発言しようとする態度。 [平常点] ・通常の授業における学習の準備の活動や、授業中の発言、発表など、積極的に授業に参加したことがうかがえる態度等。 ・提出物への取り組み状況

